

令和7年度小平市立小平第一中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておこななければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

全体を通して東京都平均を4ポイント、全国平均を6.7ポイント上回っている。「思考・判断・表現」では東京都平均を4.5ポイント、全校平均を7.3ポイント上回っている。「知識・技能」では、全国平均を3.3ポイント上回っているが、東京都平均を0.3ポイント下回っている。

「知識・技能」の問題では、「事象や行為を表す語彙について理解すること」についての問題の正答率が全国平均を0.7ポイント、東京都平均を2.5ポイント下回っているため、語彙を増やすとともに、文脈上の意味を正確に捉える力を身に付けることが課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

全体的には、おおむね満足できる結果を得られているため、今まで取り組んできたように、一単位時間ごとの目標を明確にし、授業の終わりに目標に対する振り返りを行うことを継続する。また、語彙を増やすために、説明的文章や文学的文章で出てきた語句の意味を確認するとともに、文脈上の意味を押さえることを単元の初めに位置付けて取り組んでいく。

【数学】

状況の分析

課題

全体を通して東京都平均より11ポイント、全国平均より15.7ポイント上回っていた。「関数」では東京都平均より13.1ポイント上回り、他の領域に比べ、優位性があるが、「数と式」では、東京都平均より7.2ポイントのみ上回っているため、他の分野に比べて理解が不十分であることが分かった。

数と式の問題では、無回答は多くないが、素数の問題の正答率が低いことが分かった。分析により、ある程度の力が身に付いていることが分かった。今後は、さらに理解を深められるように、論理的思考を身に付け、表現する力を育む指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

今回の調査では、生徒の努力、積み重ねが良い結果となっているので、今までの本校の取組を継続したい。少人数、習熟度別授業の方法を維持し、授業における学習材料は各習熟度別グループの特性に合致したものを引き続き取り扱う。

論理的思考力を高めるために、説明や証明問題では、物事を順序だてて整理しながら考え、表現していく指導を意識しながら問題に取り組む機会を増やしていく。

【理科】

状況の分析

課題

平均正答率が全国、東京都よりも共に上回っている。化学・物理・地学領域では全国、東京都を上回ったが、生物領域〔生物1から生物4までの動画を見て、呼吸をおこなう生物をすべて選択する〕では東京都平均より1.1%やや下回った。

生物領域については東京都平均を1.1%下回っているため、強化の余地が大いにあると考えられる。特に「水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物」の問題における強化が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

生物領域を苦手とする結果が出たため、生物領域を基本の重要語句の確認、生物の基礎観察・実験の見直し、記述対策、入試問題と基礎から標準、応用へと総復習をする。また、本調査でも出題されたような、「生物を維持する働きに関する知識概念」を授業で取り扱いながら改善を図っていく。

【質問紙】

状況の分析

課題

本校では「探究学習」をテーマに課題を解決できるように力を入れて取り組んだ。その成果として、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して、肯定的な意見が85.8%と、全国平均より6.3ポイント上回った。また、ICTにも力を入れており、「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」に対して、「ほぼ毎日」と答えた人が83.7%と全国平均に比べ30.5ポイント高かった。

各教科における「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対し、肯定的な意見が国語は79.4%、数学は64.3%、理科は52.2%であり、どの教科でも全国平均から8ポイント以上のマイナスであった。また、1日当たりの勉強時間に対しては、平日に比べ土日などの休みの日の取り組みが少ないことが課題であることが分かった。

学校で取り組む具体的な改善策

教科指導においては授業内で学習への興味や意欲を喚起する構成を工夫していく。また、教科指導だけではなく、学級活動の時間や進路学習、道徳の授業などを通して、各教科が社会にどんなところで役立つのかを伝えていく。

家庭学習の取り組みに対しては、各教科において適切な課題を提示していく。本校の生徒はICT機器を用いた学習に有効性を感じており、ICT機器を使用した課題にするなどの工夫も考えていく。